

2007年8月24日

報道各位

「肺腺癌を対象とした術後の再発予測診断検査」事業開始のお知らせ

株式会社 Oncomics

代表取締役社長 池野 教之

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社は、本年9月より「肺腺癌を対象とした術後再発予測診断検査」の受託事業を開始致します。この診断検査は、肺腺癌の手術にて摘出された癌組織を対象として、DNAマイクロアレイ法により発現している遺伝子（mRNA）を網羅的に解析し、独自に構築したアルゴリズムにより術後5年以内の再発リスクを診断するものです。最も早期のステージIで癌が発見され外科手術を受けた症例においても、再発する一群があることが知られており、当社では、このように高い再発リスクを持つ患者群を診断できる技術を確立しました。当該診断検査により各患者さんにおける術後再発リスクを把握することで、患者さんに対してより適した術後療法を検討することが可能になります。

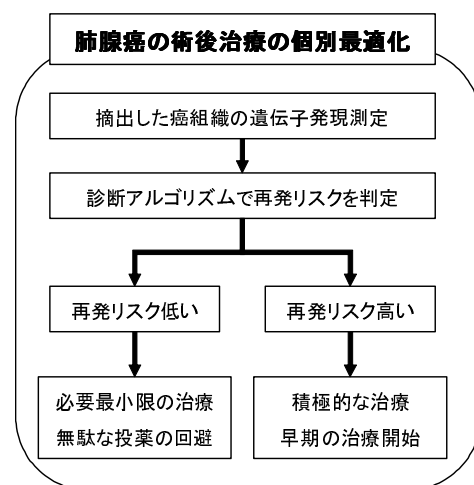
当社は、名古屋大学大学院医学系研究科高橋隆教授の研究グループを中心に、2005年12月に設立された名古屋大学発バイオベンチャーです。高橋教授らによる研究成果をもとに、癌治療におけるオーダーメイド医療を実現することを目指して設立されました。このたび、衛生検査所登録を完了し、事業開始の準備が整いましたのでご報告させていただきました。何卒宜しく願い申し上げます。

敬具

記

<肺腺癌の術後再発予測診断について>

当該診断検査は、高橋隆教授らの研究グループによるゲノミクス解析及びバイオインフォマティクス解析技術に基づく研究成果を活用し開発されました。肺腺癌87例の検体を対象とし、ヒトの全遺伝子をほぼ網羅する44,000個（コントロールを含む）のプロープ¹を載せたマイクロアレイチップを用いて、癌組織で発現しているmRNA量を網羅的に測定し、その測定データと症例の背景情報を統合させることで、術後5年以内の再発リスク診断を可能とする独自の診断アルゴリズムを構築しました。



¹ 遺伝子、遺伝子産物、あるいはタンパク質の分離及び同定に用いられる物質のことで、今回の場合では、スライドガラス上にヒトのメッセンジャーRNAを認識するよう合成したオリゴヌクレオチド配列がそれにあたる

当該診断検査と同様のものは、乳癌を対象とした再発予測診断検査が欧米を中心に提供されており、日本においても大手検査会社を通じてサービスが開始されていますが、肺腺癌を対象とした診断検査はこれまでになく、当社が世界に先駆けて提供を開始するものです²。今後、他の癌種を対象とした再発予測診断検査についても順次提供する予定です。

<株式会社 Oncomics（オンコミクス）について>

名古屋大学大学院医学系研究科附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター腫瘍病態統御部門・分子腫瘍学分野の高橋隆教授の研究グループによる、主にゲノミクス及びプロテオミクス解析手法を用いたヒトの癌を対象とした分子病態研究の成果をもとに、癌治療における個別最適化医療、いわゆるオーダーメイド医療の実現を目指し、高橋教授らの研究グループが株式会社医学生物学研究所の支援を受け 2005 年 12 月に設立しました。2006 年 4 月にはベンチャー企業のインキュベーション施設である名古屋医工連携インキュベータに入居し、癌治療における新たな診断法や治療薬の開発を目指し、研究開発活動を開始しました。今回の肺腺癌を対象とした当該診断検査をはじめとして、プロテオミクス解析による癌の早期発見診断事業も順次立ち上げ、癌のオーダーメイド医療の実現に向け貢献していきたいと考えております。

<連絡先>

株式会社 Oncomics（オンコミクス） 担当：池野

〒464-0858 名古屋市千種区千種 2-22-8 名古屋医工連携インキュベータ

電話：052-744-5881 Fax：052-744-5882

E-mail：nikeno@oncomics.co.jp

以上

² 当該診断検査は、臨床研究用で医療保険は適用されておらず、医療機関や研究機関からの依頼により実施するものです。